

12月14日(月)全校朝会

まず初めに、元気よく朝の挨拶をしましょう。おはようございます。今月12月は、「いのちと心の教育月間」ですので、今日はわたしたちの「いのち」についてのお話をします。大切な話ですので、少し長くなりますが、しっかりと聞いてください。

「『いのち』を大切にしましょう」という言葉を今までに言われたことがありますか？

おそらく何度も言われたことがあるのではないのでしょうか。「いのち」が大切なものということは、皆さんも当然分かっていることですよね。では、その大切にしなければいけない「いのち」とは一体何なのでしょう。それが分からないと大切にしようがないですよね。少し考えてみましょう。

「いのち」とは心、つまり心臓ではないかと考えた人がいるかもしれません。心臓が止まったら死んでしまいますから確かに大切ですが、心臓は血液を全身に送るためのポンプのようなものなので「いのち」というわけではありません。心臓ではないとすると、「いのち」とは脳ではないかと考えた人もいるでしょう。脳は、様々なことを考えたり私たちの体に大切な指令を出したりしますので、生きるためには欠かせない大切なものですが、これが「いのち」と言えば、これも「いのち」ではありません。

では、いったい「いのち」とは何か。聖路加国際病院の医師として活躍し105歳まで生きていた日野原重明(ひのはらしげあき)先生の話では、「『いのち』とは私たちがもっている『時間』のことだ」というのです。

どういうことでしょうか、例えば、校長先生が明日死んでしまうとすれば、校長先生が生きていられる時間は1日、つまり24時間となります。この24時間が「いのち」ということなのですね。校長先生があと30年生きるとすれば、校長先生の「いのち」は30年間ということになるわけです。

「いのち」とは「時間」であるということが分かれば、「『いのち』を大切にしましょう」ということはつまり、「『時間』を大切にしましょう」ということと同じだということが分かりますね。そういえば、「約束の時間を守りなさい」とか、みんなで行動するとき、「5分前行動をしましょう」と言われたことがありますよね。「時間」を大切にすることとは「いのち」を大切にすることだったんですね。集合時間に遅れて、みんなを平気で待たせてしまう人は、自分の時間だけでなく、待たせた人たちの時間まで無駄にしているわけですから、「自分の『いのち』と周りの人の『いのち』を無駄にしている」と言えます。恐ろしいですね。

また、日野原先生は、この大切な「いのち」つまり時間を「自分のためにだけでなく、誰かのために使ってください」とも言っています。自分のいのちだからといって、自分の時間を自分が楽しむためにゲームをしたり漫画を読んだりすることだけに使うのではなく、弟や妹と遊んであげたり、お母さんやお父さんのお手伝いをしたりすることに使いましょうということですね。自分のもっている時間が他の人の役に立つわけです。自分の「いのち」もますます素晴らしい価値が出てきますよね。

今日は、12月が「いのちと心の教育月間」ということで、「いのち」を大切にしましょうということについてのお話をしました。「いのち」とは私たちがもっている時間です。「時間」を大切にしておいて他の人のために使える時間があると良いですね。お話を終わります。気を付け、礼。

